

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま(やまゆり)		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187番地3		
自己評価作成日	平成24年5月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900074-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 ※公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東山という大自然豊かな町で、地域に根ざした生活をしています。近所の方に指導をしてもらいながら、入居者と共に野菜作り、味噌作りをして秋には収穫祭しております。また、夏祭りでは老人クラブの方が「はっと」を作り地域の方々に振舞っております。その他にも、小学生の下校に合わせた見守り隊など地域との交流を大切にしながら入居者が住み慣れた環境のもとで、安心して生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームにこにこひがしやまの特色は、3つに分けられる。
 ●管理者・スタッフ一丸となつての「自己評価への取り組み」。個々に振り返りや確認作業を行い、それを皆で話し合い事業所評価を行うことで、「サービスの質」の向上へ向き合っている姿が見られる。また個々の職員も資格取得等の目標を持って、自己の資質の向上をめざしている。
 ●地域との交流、相互協力的な関係性の構築がなされている。地域の防災協力隊の結成や、日ごろからの事業所への理解の様子が見受けられる。
 ●運営推進会議の充実と、家族との絆。地域の代表や利用者家族も委員となって開催されている会議での積極的な意見交換の様子がうかがいしれる。かつて、利用者家族であった方が(その利用者が他界されたのちも)地域の一人として当該会議にも参加している。手作り味噌の手ほどき等を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、スタッフルームに掲示しており毎日申送りの際に唱和を行い、ケアにあたっている。	理念には「地域」が謳われており、グループホームも一般の家庭と同じように地域からも見て頂けることを取り組みの原点としている。地域との関わりが強くなってきていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小、中学生の下校時の見守り隊に入居者と一緒に参加している。また、老人クラブの定例会への参加や老人クラブの方々と施設周辺の草刈りを行っている。	グループホームの畑の草取りのお手伝いや、お祭りの時のボランティアなどをして頂くことのほか、小学生の(下校時)見守りなど、「こちら」からも積極的に関わり合っている。また、運営推進会議の委員の老人クラブの会長から勧められ、老人クラブに加入している。定例会には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の老人クラブの定例会でバイタル測定を行っている。その際、認知症についての理解、支援について理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており近況報告など行っている。市職員、地域住民、家族会代表、入居者が参加しそこで出された意見を支援につなげている。	運営推進会議では老人クラブの会長さんをはじめ、参加委員の積極的な意見交換が行われている。また、利用者家族からは「家族主体の活動してみたい」という意見も出ており、会議を契機とした新たな取り組み(花見の弁当を作る等、準備から関わりたい等との意見)が始まろうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いており、ホームの実情や活動内容を伝えている。また、日常的に連絡を取り合いながら連携を図っている。	運営推進会議でもざっくばらんに話して頂けるような関係となっている他、日頃から事業所のケアサービスに関わる相談も行っており、協力関係が継続していけるように(事業所としても)取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が講師となり、勉強会を実施している。禁句マニュアルを作成し全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進員研修も受講するなど、外部の研修参加もしている。不適切な声掛けを明記したマニュアルの活用やスタッフの話し合い等により、「拘束」に繋がらないような取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が講師となり、勉強会を実施している。職員間で注意、確認しながら虐待防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を通じ理解を深めている。活用にあたっては、入居者の状況を見極め制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、家族に十分な説明をし話し合い、疑問、不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の開催、ご意見箱を設置し意見、要望を頂けるようにしている。また、家族アンケートも行っており意見をもとに運営に反映させている。	利用者家族アンケートを定例的に実施している。その内容は3年ごとに変更され、有効に活かされている。病院通院について(家族対応であるが)事業所対応も今後検討を重ねる予定である。事業所のイベント等を家族主体で行ってみたい要望を頂いている。これまで意見箱への投稿はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開き社長にも参加して頂き、職員からの意見を聞いて頂いている。実際に台所の改修、壁の補修など素早く対応してもらっている。	スタッフの意見もあり、利用者家族や来客のためにトイレの改修を行った。また夜勤手当をアップする等、労働条件の改善も行われている。年に4回程、幹部との面談があり、個別的な意見を聞き取りする環境もある。管理者は、話しやすい環境作りに努めており、スタッフも日頃より意見を言える環境があると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に具体的な目標を掲げ、向上心を持って働けるよう環境整備、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに合わせた内部、外部研修への参加を促している。勉強会やミーティングで報告を行い他の職員も学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会、GH協会定例会、各種研修に参加し他事業所との交流を図り、互いに情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問、面談調査で状態や状況の把握に努めている。本人の負担にならない程度に関わりを増やし安心して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問、面談調査で状態や状況の把握に努めている。入居当初は困っている事、不安も多く、要望に対して速やかに対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや、関係者と連携を図りながらその時に必要なサービスにつなげられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスを提供する側、される側という考えを排除し共に支え合いながら生活するという考えを全職員が共用し、入居者が主役になれるような場面作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時電話連絡で、情報交換を互いに入居者にとってより良い方向に向かうように相談や話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き、「ふる里訪問」をしている。普段、自宅に帰れない方でも、スタッフが同行し介助しながら長年住み慣れた所へ行く事が出来ている。	利用者の同級生の方が会いに来られて、涙を流して喜んでた。出向いての馴染みへの継続支援は、年に1回の「おいとこ踊り大会」への招待を受けて、ここ数年、観に行っている。「故郷訪問」や、お墓参りも行っており、家族の協力も頂いたりしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が支え合う関係を築きながら、職員が調整役になれるよう支援し、注意深く見守るようにしている。皆で行うレクや、食事作りなど一体感が生まれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年4月に他施設へ入所の為退居となった、家族の方は現在も地域住民代表として運営推進会議に参加してもらっている。また、味噌作りの指導もしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話の中であったり、家族から話を聞く機会を設けるなど意向の把握に努めている。出掛けた所、食べたい物など聞き対応している。	センター方式を活用している。色々なタイミングを見図らって、会話をするようにし、「食べたいもの」「出かけたいところ」「何が好きか」を一層知っていくために、(センター方式の)活用シートを選びながら有効活用している。食事の時、入浴や排泄対応時にも対話を大切に意向把握に努めている。家族からは、家族会等で口頭で聞き取りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後、本人、家族より聞き取りを行い把握に努めている。日常の会話から分かる事もあるので普段のコミュニケーションの中でも耳を傾けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前からの習慣を含め個々の生活習慣を尊重しながら、出来ない事より出来る事に注目して、残存機能を活用してけるような支援と現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聞きながら介護記録をもとにカンファレンスで現状に即したケアプランを作成している。	利用者の介護計画は、一度皆で意見を出し合いながら形作り、最終的にケアマネージャーが仕上げている。アセスメントシートをより活用して、「本人本位」を考えている。毎月の見直し、スタッフ全員でのカンファレンス、3ヵ月毎の更新、随時の変更対応等行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常生活上の心身的な状態変化、気づきはもちろん、水分、食事量、排泄面など個別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	成年後見制度の活用など個々のニーズに合わせて対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、小学生の下校の見守り隊への参加など地域の中で力を発揮出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前にかかりつけ医が主治医となっており、変更を強要する事はない。主治医とは手紙、電話で情報の共有をしている。	通院は原則的に、家族対応であるが、事業所でも適宜対応している。それぞれの(利用者の)主治医とも連携が図られている。主治医から生活上の注意点や指示をいただく事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付きを看護師に相談し、適切なアドバイスを得ており、受診や介護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は取れており、入院時病院関係者と情報交換を行い、早期の退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成しており、家族から同意を得ている。本人や家族と話し合いながら、関係者全員で取り組んでいる。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を作成しており、段階を経て、(ご家族等への)説明や看取りへの対応を行っている。これまでの経験の中で、看取りを行っていく流れの中で、利用者同士の心の触れ合い事例(他の利用者が、居室に入って来て、当事者の涙を拭いてあげた)もあり、利用者同士の「心の触れ合い」の気持ちも大切にしよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAED講習、応急手当などの研修を行っている。また、職員全員が勉強会、マニュアルなどで急変、事故の知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に色々な状況を想定した防災訓練を実施している。昨年の震災を機に備品、食料などの見直し、補充をしている。また、地域の方々には防災協力隊として避難訓練にも参加して頂いている。	地域の近隣の方々に「防災協力隊」(11名構成)を結成していただき、避難訓練時にも協力頂いている。様々な状況想定での避難訓練では、冬場の薄暗い時間帯に夜間を想定し行ったりしている。災害用の物品も整備されており(リスト化)、確認も行われている。昨年の震災では地域からの協力を頂いた。発電機も購入した。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が禁句マニュアルなど勉強会を行っており、声掛け、対応には十分気を付けている。トイレ誘導などの際は気付かれないよう配慮している。	今年度から内部研修計画を立て、スタッフ持ち回りで(講師等を)担当し、様々な内容の研修を行っているが、「利用者の尊厳」についても学習し、理解を深めるようにしている。また日常の関わりにおいても、個々を大切にされたケアを心がけている。マニュアルの整備も行われている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを尊重し、自己決定が出来るよう常にゆとりを持って話しに耳を傾けながら支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子、介護記録をもとに本人のペースを把握している。買物、入浴時間、散歩など個々の希望、ペースに沿った支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定、その人らしさを優先しつつ、清潔にも配慮している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から収穫したものや、作った味噌を使用している。食事作り、片付けは全員が参加出来るよう支援している。	スタッフも利用者と共に食事をしている。利用者の個性に合わせて(スタッフは)明るく声掛けや会話をしながら楽しい食事の風景がある。食事の準備や片付けも、男性利用者の方も自然に参加しており、日常の1コマを皆で作っている感じが見受けられた。出来ることをやって頂いている。食事メニューは同じであるが、それぞれのユニットキッチンで調理されているため、調理する人々の独自の味わいが感じられる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、栄養バランス、水分量に関してはチェック表にて全職員が把握している。必要時には、主治医に相談している。刻み、お粥、ミキサー食など個々の状態に合った形態で提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回個々の能力にあった対応(義歯洗浄、口腔内清拭、ブラッシング)をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個別での指導をしている。夜間帯、オムツ使用から定時のトイレ誘導に変えてから失禁が減少した例もある。	個々のペースに合わせたトイレへの誘導等を行っている。夜間の(個人のパターンに合わせた)定期誘導や日中の適切な誘導により、失禁等が減少した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳摂取、バランスの取れた食事の提供、散歩、体操など適度な運動をしながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に曜日や時間の希望を聞いており、希望に沿った入浴を支援している。	利用者の生活リズムに合わせた入浴支援を心がけている。時間帯は、夕方にかけての午後の時間が主であるが、午前中に入浴したい方がいれば、対応している。季節を感じさせるお風呂(ゆず、みかんの皮)をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や表情など観察しながら、必要に応じて対応している。夜間眠れない人には、散歩、運動、日光浴を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が入居者個々の現在の服薬状況を理解しており、服薬による症状の変化など見逃さないよう気をつけている。また、必要に応じて主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴をもとに、家事、畑仕事、趣味活動など楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事係が年間計画を立てお花見、ドライブに出かけている。なじみの地域でも買物や行事に行っており、散歩も希望を聞き個別に出かけている。	近隣の散歩や、個人の買いもの(おやつや、衣服等)、月に何回かはドライブ等へも出かけている。家族も参加するなどして外出支援が行われている。大きな行事等は、行事係が年間計画を立て、計画的に行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に応じて支援を行っている。買物に出かけられる人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、装飾を変えており、外出時の写真を貼るなど工夫している。温度調節、換気は常時行い、不快感のないよう努めている。	利用者の多くは、一日のほとんどを皆の共有空間で過ごしている。採光もよく居心地のいい空間となっている。一角に(置の)小上がりがあり、定期的に市の図書館から本を借りて置いており、利用者は見たり、読まれたりしている。梅干しの本や料理の本などを好んで読まれているという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファ、廊下にも長椅子を置き本を読んだり、横になられたり思い、思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真やなじみの物を持って来てもらい居心地よく過ごせるようにしている。	備え付けのベッド、タンスのほか、写真を飾ったり、神主の経歴がある方は、壁にお飾りが掲げられているなど思い思いのお部屋となっている。お位牌を置かれている方もいる。各居室の採光もよく、明るい感じの間取り(空間)となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者がさりげなく気付けるように必要な情報を掲示する場所などに配慮している。		